



北浦小だより

令和2年7月6日

(HP) <http://www2.sopia.or.jp/kitaurael/>

Hop Step Jump 第 11 号

ホップ・ステップ・ジャンプ

文責:校長 武田 民弥

「本との出会い」から 「霧の中を行けば 覚えざるに衣しめる」

以下は、笠間市教育委員会 今泉 寛 教育長が書かれた文章です。

曹洞宗（そうとうしゅう）開祖・道元禪師が説いた言葉や問答などを筆記した「正法眼蔵随聞記（しょうぼうげんぞうずいもんき）」の中の一文です。霧の中を歩いているうちに、いつの間にか衣（衣服）は水気を含んで、気が付くと湿っていた、という様子を表していますが、その意味するところは「人は知らず知らずのうちに置かれている環境の影響を受ける」ということです。

このことは、学校にも当てはまります。**学校のもつ雰囲気知らず知らずのうちに子供たちを育てているのです。**学校のもつ雰囲気は、長い時間をかけて醸成されてきたものであり、学校文化と呼ばれています。（中略）

今後、ウイルスとの共存・共生の中で、社会構造が大きく変わる可能性があり、それに伴って、学校の在り方も変わっていくかもしれません。しかし、オンラインでは代替できない学校文化を失ってはならないと思います。

子供たちが、毎日、学校の空気を吸いに行くことの意味は、学校文化を少しずつ体に染み込ませることであり、それが子供たちの未来を生き抜く力の源なると信じています。

教育雑誌の「私の好きなことば」というコーナーに、上記の今泉教育長様の投稿が掲載されていました。太字にした最後の文には、「学校の存在価値」「学校の存在意義」などまで感じました。学校の雰囲気が子供たちを育てる大切な条件なのだとも思います。

落ち着きがあり、今、目の前のやるべきことに取り組む雰囲気がある学校には、そういった児童が育っていくと思います。私は、**北浦小学校に「他の人や学校・社会のために進んで活動する雰囲気」を創っていきたいと考えています。そのためには、我々教職員がその手本となり、児童一人一人がその雰囲気を感じ、進んで取り組めるような学校にしていきたいと考えます。**

茨城県教育会誌「教育茨城」

～本校の記事が
掲載されました～



茨城県教育会月刊誌「教育茨城」の「あたらしいともだち」に本校が取り上げられました。この紙面は、新設校・統合校について、紹介するコーナーで、写真は昨年度の学習発表会の全校合唱が掲載されました。詳細は7月1日のHPをご覧ください。

『おジャマします 授業拝見』② 【6年1組担任 ○○ ○○ 先生】

外国語の授業は、○○先生と△△先生との元気なあいさつからスタートします。「Hello everyone.」「Hello Mr.○○&△△.」。児童の表情は生き生きしています。マスクごしに元気な声が聞こえてきます。本時は新聞記事を使った「What do you eat?」でのウォーミングアップが行われました。英語で「その食べ物は、赤くて丸い」という第一ヒントをもとに児童が「ストロベリー」「チェリー」等と答えます。さらに第二ヒントで「黄色や黄緑色もあります」となり、多くの児童が手を挙げ、「アップル」と回答していきました。「次の食べ物は…」というリズムで進み、食べ物からスポーツなどへとクイズは広がっていきました。次は、「聞く活動」。はじめはALTの誕生日について、本人から出題されました。正解すると「マザー・テレサは？」という感じで歴史上の人物の誕生日をモニターの映像・音声から聞き分けていきました。授業の終わりには本時の振り返りを書き込み、何がわかったかを確認しました。**○○先生はフェイスシールドをしながら常に笑顔で児童へ語りかけ、リズムを大切にしながら進められていました。**



○○先生は学生時代は野球に熱中していたスポーツマンでした。今は、2人のお子さんとの時間を大切にしているため、釣りやゴルフなどの趣味の時間がなかなかとれないようです。今は□□市在住で、月1回くらい家族で焼き肉を食べに行くそうです。6学年主任、運営委員会担当など学校行事や児童の活動の中心となって活躍してくれることを期待しています。

